八洲文藻卷第四十三

内閣文庫
番號 和 18283
冊數 88 (44)
函號 204 259

内閣文庫
和書
類 一八二八三號
八八冊
二四四函
八架

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

渋沢栄一記念財団蔵書

文藻巻第四十三

權中納言従三位源朝臣齊昭編集

家長日記下

浅草文庫

内閣文庫

内閣文庫

源家長

元久元年正月廿朔日北行幸あり

京極殿の御所にて

[illegible]

[illegible]

たうとくまことにあさましくとも
事なれはうまをしらうら
をもてゆ無なくまうしてゆくに侍る
まことにてはつかえ侍うまをはなる道なりと侍
世今更なる乞はしてあるくしく
くはなおかえ侍らはいかゆしさる海と
むとも侍事なを人のおかえぬかくとも
はひうをまへとうとくかえ恵敬尊楽ふと

中物をひうをはなる又いうてうあるく
しのうを侍てうに月幸はは日又なるはは
ふかをまをまを人くをてうしう侍
ちうこひく心あるはは人の耳ゆり
をそぬまて　てうし　ゆ出しあるに
をうへはをまうしこを侍ふをまて
やをうまをまこを侍しう侍ふをは
ををを侍しうはをををををををを

斎はかきりハいひてつかはし
ましなおもハつたんさはかり上下滝右
まこみくわのくさしさえ色くもなく
けしきり侍しなはしめつくるたくひ
すきもしきしめく侍しそのかなもとし
せくこねの清時二条院ハ朔さんの行
かりの清時かえあそはされ侍し事
なくひもく末しきとやあくつまし（な）

世のたひハきはうる事さくつまてこまかなて
人清くまもきし侍しされと清留ハ五後
おもて厚遣て清稿なるも侍りしそのは時も
歌人なく侍しな清ふえなるに清を侍しに
色ゆえつてつまつきなとし侍さるれ
時さ候のう清歌しもあえうおるへ清なとな
何し厚を侍しつハかりまて清なれとも
世清ふ事ハ侍る清うさん此度ハ清とし

かさなりぬれば、ものをさしもおぼえず、
なりぬ。ものをいはんとすれば、二条中納言
をしくをしくいはのやうなる中なりしたり
しかば、行幸は正月九日なり。言いしらく
ありて、跡をいとゞもとゞまるべきなり。
左右近のつかさ、左右ふみちてうつる
雪とともにうつるたふ事きめとあや
なるものなり。かくの方のさこそてとき

かさなりぬれば、ものをさしもおぼえず、
なりぬ。ものをいはんとすれば、二条中納言
をしくをしくいはのやうなる中なりしたり
しかば、行幸は正月九日なり。言いしらく
ありて、跡をいとゞもとゞまるべきなり。
左右近のつかさ、左右ふみちてうつる
雪とともにうつるたふ事きめとあや
なるものなり。かくの方のさこそてとき

国立公文書館
National Archives of Japan

[illegible]の[illegible]みあり[illegible]世あり[illegible]段少納言
[illegible]の名とり[illegible]連ら姿[illegible]れさ[illegible]
[illegible]名や[illegible]を出[illegible]を[illegible]とこ[illegible]に
源[illegible]を[illegible]ひし[illegible]世の[illegible]ふ今の[illegible]時
[illegible]ふ[illegible]れる[illegible]と[illegible]こと[illegible]し[illegible]道[illegible]
[illegible]世[illegible]し[illegible]名人[illegible]ぬ人[illegible]おも
世の[illegible]と[illegible]あ[illegible]こむ[illegible]のいひと
[illegible]ふ[illegible]代人を

[illegible]ふ[illegible]　大政大臣　和琴　左大臣
右大将　忠任　筆　春宮権大夫　拍子
皇后宮亮　笛　侍従宰相　筆簾
有雅朝臣　付歌
南北の相撲[illegible]ひとさ[illegible]名[illegible]ふ[illegible]
ひ[illegible]れ[illegible]名[illegible]二條中納言[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]ふ[illegible]やう[illegible]ふ[illegible]恩[illegible]伝一階[illegible]ふ[illegible]
[illegible]し比[illegible]の[illegible]甲斐[illegible]名[illegible]ハ今[illegible]

ひさしう侍りし御堂関白の子孫
なりしかども人おのおの勢ひ衰へ
居たりしかども清和天皇の御
末なりしかば世にいとあた
らしう侍りしと言ひつたへ
る良通卿の御小ひらとなりて宮腹の
いとけなくおはせし元服等うちの賢蔵
人侍りし頃政度つかさを捨て新宰相勅使
してとういてまかりあり廉業うち行
今は世は沈巴とうち沈み侍りしかば
きはめまさや行幸は清北の門
内きたく先はうの方なりしかば
ちうあるとうちは如房ちうの局ちう
きよとおりしくく
うといとしいとものしうて津の国は
やさしの世は志賀成りし
かの命きよと仰あれば志賀つも

[illegible]
[illegible]
おなじ院の嘉[illegible]殿といふ女房又
君の代ハ[illegible]の御幸なるべきこと
ハの代の事をつたへきゝ[illegible]
[illegible]又下野[illegible]
つたへつぶやくの御幸の御末を
待とる君の御代なりけるよ

此下殿ハ[illegible]成仲の孫政中の娘重代の
人なりけるとハ皇后宮なりけるこゝに
ちりのとこゝやと又ハ女房ハ八幡別当
光清の孫宗清のむすめこれも歌よむこと
堂食ふかくあり書
てあいてかくこゝまたら
[illegible]
[illegible]
を作[illegible]ハあるゝ作[illegible]の人ハ歌こと

少くこえ侍しとて新古今ハ入れ
侍し　撰者たちの法京幸清卿道
ゆ所ハいと高くこのこゝろし
なを侍ま八幡法歌合とく侍しかを
歌めされく年比たゝ物しるかしと
所ゆゑいとこゝろ侍　水無瀬殿ゆ
ゑを侍ひし比あるゆゑたいめ
とゝ侍しゆ八八幡へまうてたる法ゆく
ゆ所ゆ家ゆ家ゆひく表も侍ゆ
歌ゆゑしてゆ長ゆ歌ゆれとゆと
ゆくあまをしゆハ下ゆしてゆ中法ゆ
ゆゑ
苔ゆあ人ゆ法ゆひあ
名ゆハつゆを秋ゆゆ法元
ゆ越　幸清
ゆひゆぬゆあゆゆ秋の夜と

家身に添こ候者行く先の定

又候ふしにまかりて二三日ことゞまり京中

をうかゞひし侍りし道すがらまかりし中に侍るの

たび

君があたりつゝ遠里小野の白妙は

よそに侍るもあはれなれ候

返事

候君と立かへりつゝ見ゆ君があたりを

あさしハヽと侍るにあら候といふ

なやましき東にて歌よみたる川紅き

しらぬ黎と徒く打ちふし時々つゝ侍る中

悲しみうつりうしろあはれなる事

うらなむおもひつる

新古今に頼政とありて此旧月を待つ

ならひとなく古今集中かきたるにて

あこなからの集は張氏月の沈より和歌なる

今あるような人さしあり何ようく辰時ハ
まもなく日はくれまもなく子を出ぬく行る
そうさしあるハさらつさ公のいとまも
ふしもなく世新えもせ給へるはまと
りあはせ記をと求るあ人撰者
おはくきんしあもて後をくしく
清覧しとおしてせは中なもある
はは清点あまて古逸物語清範うさいしし

あのうちきれと又はは覧して二度まて
うきいはふまをなへうはたうう
まのこうおうつあにあ新の
ていとはきとして中うを今はは
うは山寺は法師をうをまくは道あ
たくをあいおの何うを道はるも侍へ
しきのあ人は撰者あるくあ日点とうさ
いしたうををくあと何に部類をう

祈りはさもかなとて有きまゝ事行れ
ぬ二千首の歌あつめて百首とせられ
あらさへ法を法つ道はるこゝ歌とも
清仏法うらのようくはをくらさたり
うしきまくあらそせ法つふ法道と由
さうさおとしはあもひまるきさうし
日仏を命と仰られて別類したると二三日
をりいさ祇てうみとうち志をとは皆

あらきうち道とくく一巻成就さくしく
よと讃とれは下はとくをうれ
こ道はあとうちかしきくうたかり
て二三度清覧したふ事あ日霧わた
道法をまして度しく清らを法をを事
あしと石食多くいつ道この清仏法有て
ともまはりつさ首をたゝしあ撰集そる
侍れはさうとこ石歌ようを和もの

を通て云ひくはせあつまる○行西花を
うまとなみくとくうこゝを云ふと尽し
て中文どうさうふくくうち中あへうは行月
陶を月雨は有しうを志めしこは此ハ
万機まつり事を行ひ御あれて大事とハ
この歌はさのうを行職事も院国を
いとりあふ此うをとあつうは行職事
のふを事さをのうをさをふ大事

みはあうはふと学うを中行しまむ川
川事山に食てこは此ハうの事は
耳みをいうぬ之新古今は初類ばいりて
耳ハあふをふと作れしやはし
くうを行しをうを清たは姫
事を耳をまうふこをいう事
事はて初類をとをうをまなを
をうしにの人達おのふこうとに

[illegible]して[illegible]かとわらして歌よみ事
[illegible]ひ侍さうらまつる事さしもる事ハ
[illegible]て勅判なれ[illegible]よ[illegible]り家隆朋臣のぬし
[illegible]や[illegible]かとうとうしやうそ此集に入て侍り
[illegible]て此勅撰ハ[illegible]ものしを歌ふとて
[illegible]とさぶとうとうとうハ姫
[illegible]あとどうとうハ[illegible]年 拾遺なりと家隆の
朝臣歌

[illegible]とうとうとうとうとうとなく明よ尾
[illegible]の[illegible]道[illegible]
[illegible]道[illegible]やまひ侍り此所ハ[illegible]
[illegible]と書侍り其時拾遺[illegible]
不[illegible]人ハ

参議右大弁公定 琵琶 参議隆衡
従二位親高 笛 従四位朋臣 笙 隆仲 拍子
[illegible] 篳篥

清遊をもとりておこなひ和歌をあつめ此集
をいとなむ人の竟宴のもとにまうづる
ものゝ人ゝ侍りさて清遊の日琵琶のいと
みをもちゝあるをもあるべきはらしさかり
道のたまものゝ人のいとなむものゝくら
かりみなくの侍る御前ゝ琵琶をひき
給ふ事を貴く侍りさるめたるふる
るやかたらてもの侍ぬる事をいふ

あるし其ものはかり事をもふること
なれい聽ゆの人ゝ庭にもえひかるあら
侍りふる事いひあつめられ書
うしてゆ今をもとりてゝみえ
ものとこゝろ取なれさて竟宴をとりてを
粉清書いとうまをもて後歌をいとは
又いとうまをくらやゝ詩ゆ合のもたる
しへるゆ世いとさまの道たるゝ人ゝは

か色るさしもきくも清きみつくらさを侍遣
ことなりおもひよらぬ事ハ清気とて
今さらと云清なく
むかしつらるものはかなく夕暮の袖なくも
志かたなしまてとさへえ侍こる道とえらむ
とくくもさせなりとおもひ志かるはれと
清書いまたとゝまらぬ猶ハ猶おもひきらぬ
頼まてかたし然く月なくいはりあへり

とせし源さの猶きくもあなかれくなは
よむ歌のかくしく里のみえしくハかなき
ためとなりぬ
元久二年十月廿七日水無瀬殿清書くや
うちの此清書前太政大臣うきゐて清く
なせ給ふ御ハ同おのあまさ行のうかふ
ひしころくゆうしおかれたる清書月
みの開眼せさせきとなりける千部の法のなか清書

なかくも御なくまうてつきは法堂つくり
くやうさしる

すされなまいにもうれしめさせなふとそ
法導師ハ禅覚僧正也法法なく おもく
すゑうしうハ法をうけものたゝのなうし
法事はとえなく侍しさ侍しさいつ
なあをなりしき法まつる事はひめなき
りたしめしまされて今ハ已法まいもく

り法なも法うせおハしまさんハよれなくる
むみく侍つきはうる法いとなるも常
りなえは承ぬることそあさまれふらしもし
なく侍まいとはかいまなうぬやうなる法た
うれいやし法文侍れとうる法頼も
これハたしめ女添ハみや法導師もなく
うりて法なうしもおほえなしなうなき
紗無くとのこハ中へくされハ法れとうさ

なしとやいふへきたきけふかふくきれも
ことさし傳し侍事今迄ハ侍らてつた道
と

木の葉ちるおく山里に住ひして
なか物とおもふこゝろかな
君なくて住ける床の小枕　哀
落る涙のよ衾はおもひと
秋見んとて恋く待てなくとなけめても

たつぬれは雲のあとの夜道や
いつきん去年ハ明日と思なれて
涙なくわか山おもしの風
山はと小経ひあらハ人さ道　月
なかきはとなる岸の末うし
彼よりれし山は小門のうき氷
いかなうきかつらは法は水波
うひ出る秋なく　紫式　推小　娟

むとしたる時に
あハれなる苔の下みを始しとも
ものゝ音と聞ゆ

清かの尼

前大僧正

夕人の心を先きとなるなる
野寺のうゝ花ぞ聞こゆ
色をうつす身をふりぬるひとに
法日あふ身は山田もるこゝろ

君うて山陽ゆくさきをまひきい
ゆくとうらをあやもいん

清通

吉野風こゝいかりて秋のこゝ
雅波の美は有は枯葉に
夕くれの雲ゆ有ゆ月
夢ゆ夢ゆて月のゆ
枝てゝせゆゝゆ世ゆ君と立て

山端おもふ心をのの作成
きれもうハ今ハいたての社参
まうしの袖ハきさらぬふる竜
きてもなを山のはとを通ハ月乳
ゆくをまつ〳〵のかたらつきつき
浮かべる雲〳〵月道たる二首
伊勢〳〵のいたての社参ハ志賀
きさらぬハ袖の恵ハ出ル集

僧正

雪ハいとくもおもの空の月
とをもこそ山ハ志ふりやらへ

君の代をかぎりもなとなほ分ふるさハ
をこうもをもおもふさらはし
をもかもに恋ふ道の霧とも消ぬし
君の恵ハ去ハあはをは
君ふとふをの去ハ恋ハかりてを

うきなの霧は消なりぬる
きふまてはうきとなつかる我身哉
ともおもふ君と頼りは

渚の月

あさむとも見ぬかれとこひしと
あうさ色やうつろふ
恵ゆえ吉の日新なる事
消なぬ霧と成るとぞ

[illegible]

いつてうえまし源氏色と

こは此袖の名あるなり

偽心

うたしめていたちむすくなる
今はむすこは和歌のうら風
のきまくらもしこうき袖なおく霧

消息しるしをうふるなり
伊つきうの君しるしをはいうう風
なりき跡まて色色を嫌しさ

清水

いかに〳〵の波なくうう風と
今はむしろ中をかれしに
おく袖は霧ひらりふるへくい
くらふまきふ通はあるとれ

俤正

君うきあ部の山ひ屋そひ
なりはあるの月 去の表は義

清水

去通はなるなあるの世去は
いかさうなるなの月やなるる

これなどのうるはしき事
いとうるはしく歌なども
まねびたるもをかしかりけ
るものをいかにもてやつし
うるはしくさまれ
ぬとぞおもふ

きりぎしもとまつことはなるゝれ
はとゝろいとてのきの
はのの

何事をも食出さるゝなどゝ何事
かうるはしはとゝ
うるれそなれおもをれし事のあるを
り志をさく何ゝ
をうるはしはなるゝ
しき迷なるくはいなる
をやうなるこゝろ

本ノマヽ

[illegible]れし[illegible]世の[illegible]ひとり[illegible]いとまなく
[illegible]なる[illegible]て[illegible]と[illegible]なりて文にこそ
[illegible]とうもたる[illegible]時を[illegible]れ[illegible]
[illegible]念珠の[illegible]毎日おかし出[illegible]の[illegible]
[illegible]ふ[illegible]毎日中てもく
[illegible]ことは[illegible]
[illegible]の日[illegible]大[illegible]の[illegible]
[illegible]

ふ[illegible]空[illegible]
[illegible]星[illegible]ぬ袖[illegible]
[illegible]やう[illegible]雲の[illegible]
[illegible]嵐[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]

水元瀬川とゝふ所に流れ水
山のもしたのをとり成る
おもひ出らるゝ事と申さうら
ゑくれぬ程ふる雨の
[illegible]

元久二のとし三月の二日賀陽殿に
まゐらせしき例のゆゝしき物のつゝみ日
はあまた参めい例の三条殿へ行ゐ
給て清地とゝめあるゆゑとてをはの
人をもまうけをとゝ作あれて出させ給
おはしまあり陽うをもうり清涼殿の
世をひろめハやいしてゝ
くらんとゝ申ゐくひとゝをとゝてゐれ
ゐをさせ給と作ゐるいゐる人は申
こゝろなくて志あるゐうをとゝのを
ゝくさらんとしき事給ゐ給き

俄なみつさとりしひとあくなりをもて
ふるまひなりとなのさはかはのついてを
貴位のことをもこれうまかりあたる
かとゆきあさはのれいこうまをはく
ちこれいうはなおとをたをさしめ御を
後年法いてる楽人まをはなはさしめ
りおよをうめれいはゆ茶なくくら
はしめりなれはりなさしもをいこれ

ちをとりはなりぬかのよりをとあるをを
あをはををあるこもあるこ
ひとれ事しものうをかこ武賢ともに
親をさりおとりはなをはさしとものを
はいてに章賢四十をてまりをてはたく
をとりはこりはいはあさりをを
はのはをりををくひををなり
をとりはをりをはてはをりあり

まくらにおひいてなにものとさゝりとりつ
こゝろはこくとうめるせとをかくふなとひふ
人こゝいふめなきはこゝろはくうまれ給し
よりこゝろわきに中清盛給しには我子
若せりみおふしたくくもて十七さい十
なりけにみつゝいまをれく給しむしく宗盛に
申さうひをめ給しとむねうし中せう
清盛へ給とし此乃きんそとものをとなれ

京賢みなひてけんも色うしくいりたりの時
とまつりへたまへくハ侍とも世中清しるえ
かく給まへハ忠乃かつさ公事み行しとゆみ
陶うりあまきていつかゝん家のそもあけ
清りうかく存ん事ハうりつゝつさゆと
あらは此楽家のも昔も今も清きなくひ
おかく中めえ給さおハもやう此よりうるたゝ
けみさたうし東をわつきとなりにこり

うまおかえて仕道いとこれなり中法を行ふり
とりてかたこうわさてなひ仕さ者道
り宗賢京賢左右書に
ゆえ人ハ仕とまきうくいひくふ
おこ人ハ仕ハこの京賢
おこりたく仕ハおくまうさてもあこ
とおの道いいさ色しいるものなひ
なれとこ道をおく道とは仕事とこく

仕とまいるに仕ハ人のおもひ人ハ
いかもといるハ仕きくあ仕と
るまあれまを仕道ハとうわさ彩の
やうみえさもこの拾忘ま月ハむね
うきいひやうおこりを彩まあふ
またはをまくをゆれハ月のまたとと
こはをまてえきとこひくこ
とは事とまきついくまれハ中いくし

をもてあり世下はやう誠を利益家門
まくを南道をふるひあるものくいうて
うたいやとくあるこの道をめして元服
をはをへさきに和をあらはしたるこれをとうも
はをもあらこひの滅をみはをさ首延長
天暦とやうく帝をあるの道くを
法恵をつくワるを和しまし事いあれば
らくもはをしとをとうをしをなるあ

をもをもて法はをるくと陰りをはをは
もことワりこのいをさて世のむね
おをあくめをを作をもをもむ称
をはをつをあるおりおやのをもはう
をくとをりくやをはをうて陰陽師
を日次をはをあるの称あるを十二月廿四日
世をはをさめあるをかの冠の人く
をてをりはをををはをこわりは

内侍ゟ左大臣殿ゟ内侍へ
被仰渡ハ此左大臣殿ハ
あまうてしゝ内のしゝ
ゟ外のいとゝもなくて
しゝ白紙して其日と月も
申ゝおかゆゟ被申廿三日のあたりいと
う法風の家内ゟ
ゟ内侍へ
ゟ内侍へ

こゝあまうてゟ内ゟ
きたゟおかゆゟ
内事これとめ
これと申ゟ
しゝおかいと
ゟあもいとゟ
廿四日内ゟ
局法取法ゟ
ゟ内侍へ
ゟ内侍へ

をたく今法行水なとあるとて出はせ
給へし元服のこと申しいはせまうきなと
作らせ給ひ其のかたをおやのをとゝや
給うさ候なかさの雨降あり
ものをおもせとなきあるものなと
をとなさしてもちふやまれて月の
出給ひ其いきをとうしかふこう
くいはきぬうきをくこうふうさねて

あり分かとのかとをうしいたるさま
をあるを京極殿は小清水殿出給ひて大政
大臣頼通殿公卿殿三人いくくとも
なをおしこみくあるを世のいたひて
あ清つかへまゐる殿をうくく庭なに
てとをこはう者あたのまゐる
殿さよう作らるをいのとみくあるたむ
其はう者くいをとをうはう例の

かりそめにもあるべきものとおもへ
ども加冠の後中納言定輔
理髮かわ隆仲ゆゑ
ものいはれしも道のためあるべきことなれ
ども伊しう大政大臣ひとりせられ
給う公卿かうむり役を行ふ庭をば
はとめられる事いとゝなり世をば
あるべしとやはをぼしてめし

のかをらるゝ役を行ふ理髮をとり奉
侍るべうしといはれけるとうて中納言
ゝてゝやはし（辛ノ字）道てきはせあるる庭を
おりていまなりものゝ子ゝ
つゝを侍るべく名字の事をとうひ
中京基と作下さる京賢賢基を基改う
基と作をれ事うり作らされ
むとういまいまを地し侍るしう

きくおかりおやいあひくしてしかやと
作らう宗賢今日はいかしらもはてや
さるは神事にこそいとさはらうまと
ぬとしあさ宗賢いくしていらしゃ
めをてさらし作らうまとして夫人
はたおはめされて祐更は茅巣楽はらう
月まと作れて平調は茅歳楽三
蓋恵をはらうまに出らう作代小

うまれあひはをあもしかをて
はなくとおもて事とらうあひあ
はらう出ぬはらく実おるもさく出く
とはらは酒をめとをとてうう
事とらて
君う無人の代はさるこもはら
らもとはひは君力重近
をひをさしておはくくらはぬを次の日

武賢卿より中きたし
宗任ちゝとはひのゆうきて
姫しゝ遠月むとかゝ遣つる
返事
ちゝとゆひのこゝ宗の姫うゝ
君う八ゐ代月宗ゐれ
一年ワ八ゐ系れあり定家中ね
ワ小君ゐ元服ゐれふゐやゐ多ゐ
ゐ遣う一ゐいワとゐなとてそうきゐと
おかしくて
ゐとゐ源ゐいゐ源ワいゐないて
あゐ任ゐワ一しかをう形
やうてうし任ゐしうくしゐ作
ゐゐ
道とゐ元任ゐ市ゐ
此ゐうしかゐ君ゐ考ゐ

主殿とめされ給はさせおわしくかわ国さ
給をは信ゆるさるてかわもとまりあり
しかの中はうさ給
三条山雲井とうもくまるれ
ちう雅楽はちるの月末
迎事
まいくら初ひ茶のあるあひあ
うまとさ三条の山雲かひを

又家隆朔日宮内卿なりて給る中はう
ちひ
家はうらとふ物をみふし歌色の
たのおくちふまるかしや
うまとさくあられまとひてまり迎事と
ちやくまるれ給しうる夜の風行る
物ともちぬう夜の夜の祝おしまう
まくもを迎くをというまのいうを給

らしあつまるくるまをみる
ゆゑなるひとさまたりてはあるれも
いてくつめふとうくいとしをしはをし
はるよぬしさるてまた又きるおれ君ふと
の人みやとおりあうしはくのまきさはき
宮内卿を家俊ニ任入るやうもふるる感
子息を侍従よあさられてしてたひ
さるなりあさうぬ清うまへのいるふる

町屋うり出てそうきのくるまをあひ
ちさしはやひとうことの通しあまた
まうひし神と書のもうも
きてもし元久ニ年ニ社やとひ七日を
いつるる月日なりうし摂政殿のやうもて
やはをはもしうい六日ハ陶あるを行て大社
清政をめもしよりやはを行くを社を
いてはを行なしきくうる社清きも

いをはてゝうりやうおとゝをはなさ
ぬゝ経月星のゑうりをあゝたしく御ゝ
うとれうゝとゝ行くくゝ御ゝ
はゝをゝあゝゝ月の廿八日ゝ経ゝの年
ゑやをはをうゝとあつめゝゝ中さ
さこうれはおゝゝさあゝゝいくゝ
ゝた清いはうゝゝゝゝたゝく御ゝゝ
ゝこゝやはをゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝはをゝはうをゝさゝゝゝきゝゝ
まくのゝこゝゝ御ゝゝね七日のあゝたゝ御
ゝうはおゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
女房達まゝゝゝおこゝまゝゝゝゝゝ
はゝゝゝゝゝはをゝゝゝゝゝゝゝ
時計にこゝゝはゝめくゝ廿ゝゝゝゝゝ
ゝ馬車はゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

を去日の方往日清こうの位ふるを以
女房ゆとりうる物をもとりて行やす
き事をやかるとを信ゆえあやめうる人に
ふるうふこと有ひなき事ふれとるあと
しへなくふしくおかるを遣を君に
清ふるを日おかりめたるたる作りいを
おろうなり五辻殿と人上下四人くる
事ふくをもちふ月間まあり疑といむ決

物
詣
ものまゐりとやゆ作事ふこ様より位
しくしくしっかくふるを以ふ理作り
世度二位中将なとや作時より君のいを
ものくかるを也信しにうあるあ
列まゐせくあるきぬるを以ふを
あるなりさ様ふ理とあうふ位歌の
作あるきうぬ事也四月ふを也と
あ日高くいなるさて中さハをを月

[illegible]
くるしう侍しうもやとゑのうら
うらうめ[illegible]あつめ[illegible]いかなる志ゆ
ゑきこうたいらゝ又志ゆ[illegible]ゆ[illegible]
の侍をさうあ[illegible]と宮ゆ[illegible]ふ
ゆ[illegible]の神るさ[illegible]ぬ[illegible]ゆ数と侍く
ゆ[illegible]ゆ[illegible]向と文ゆ志ゆ[illegible]をふし
申ゆ付ゆ人[illegible]皆ちゆ[illegible]ゆいく侍

[illegible]ゆ程ゆあれさいひゆ[illegible]ふ
中侍門後ゆくゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆて[illegible]ゆと
[illegible]れたふゆこ[illegible]水ゆ宴侍ゆ[illegible]
今二三日ゆ侍ゆけ[illegible]ゆ侍ゆ[illegible]ゆあ
たゆゆ大侍正ゆ房ゆ

津ゆ国ゆ熊波のあ[illegible]ゆと
こゆうさ事ゆ志ゆ[illegible]
去の夜ゆ夏ゆ[illegible]ゆ名ゆ[illegible]て

はめはいとうたふらるる

清道事

津の國はあしうらるる所のこと

人をうさはたをいとはうき

大うしはうき世と憂と　さるる人を

ふかはいこそ袖とたはるる色

又僧正遍房より

初はは山道をえぬまでう

法道事

ものの山むしは月やかもむる

うきは世をうしと人を恨き

又僧正遍房より

山里を此世はをわるとおもへども

あくひのうきはねとのみを明

明はとはるぬ人の事

ふきも海とひぬあるも海とひぬ

法道事

あはせて成り

清道

明しの神を如道り大こうの
あのことわりをもあはせて
法は道はたらくを志こうやあるも
形ちらの山のうしめの分や

又僧正清房より

神の道はあるひは形ハあるなり

清道

神皇月君女つきこうおひまく
形おのかの法志はたの義

又僧正清房より

志は花妹の月とて ちこうる成
ものとしいうなを志しうるし
石上あらら道こそかとみ地道

志の末を尋ね家いろ女を

清道

神皇月君女つきこうおひまく
形おのかの法志はたの義

又僧正清房より

志は花妹の月とて ちこうる成
ものとしいうなを志しうるし
石上あらら道こそかとみ地道

志賀の山路に雪消ゆるを

清水の色

雪消ゆるものうらみや春と云

色にしき細殿とうせるや

姫ふ道の志賀の山路に春とさそふ

一人袖ぬらす袖ぬらすらん

又信濃の清房より

志賀の浦に池の岩根とふりもせぬ

いはねの末高き庭の松の色

手向おきし一ねとしをへし秋を

志賀の山路を雪とや紅ふりぬらん

あてふしらいし海の水を紅にして

あらぬぬるぬるぬれを袖ぬらすらん

清道

志賀の浦に岩根の松のたちそふ

末高き風と人やたのめし

かてのこゝろ　あさくも
かすみたちそふ人やかな
ふるさとの石間の水又強るやと
をしそやへ人は　あとの姿
又僧正遍昭の法師
春のたに面あさも今ハ見ぬとて
人目ハうるの野を恋しき
遍昭

流れそふかへさをやをしるべ
ゆきなるものあつまつの葉
又僧正遍昭
そのしやうれとうれと人人の
もとをとせ山陽の法師
遍昭
さらしなとかはしと月影の
ゆてやとぬ袖ハあらとも

僧正

あやしのやまもりの山の胡蝶哉
芝付きるとしらぬ小野の波

清通

消えやらぬみの山の胡蝶哉
思ふ神を秋はかれてさ

僧正

春ふかみあはれとぬるるうぐひすの
おちる涙の又ひとをなり
世中とあさくこそついたえもきぬ
あうさ忘れぬ恋人もわし

清少納言

春ふかみうぐひすとかをていり
洞の色をそなれは袖まとの
世中と秋を絶ぬ野原をは
物うさ誠さそ風ぞ悲しき

僧正

世秋は昔とこふるもあらぬ
月とみるなれぬ身とやなるら
雲ゐはとは袖濡やあはひ出ん
消ぬるつゆ身あるねと

清原

煙とのみ秋と思しといひおきし
雲ゐはとは袖やあはひ出つる

僧正

君ゐ宿ひ出ん君ゐ宿る
袖ぬるるる

僧正

僧とこいうるきしのふると
うるるうるうるうるる

清原

中くしやこそいきてあらぬ
なれ昔と行こう意ん

俗正

ふくさむるたりふれとも春日山
それちる峯に明る白雲

清かの

今はたゝあちる嶺の雪ゆゑ
散うゝ雨よたりとも思ふ

俗正

ゝとりことわ(ま)と我とう中にて

清道

ゝとりとうこ系の杉は行末成
程いの〳〵の外よりせる
もくて俗正清よとかう(ま)ゝ公こうなく
なりうくりとうきこうりてこう(ま)とう
おりをある

津の國のふるさと社長は世社中に

いと侍らさりしかせの者ども
おしこめ奉り中院殿をも
をひいまたふ者ども
をすとりこめしに
承元元年霜月ふか白河殿の法皇養
なりけいとをの日辛ゆとりて六十六
なりの月法ひなりり白河の法皇法勝寺
を御ぜいの寺いとのめしくたく
おうれたふ御ぜ御祈ふかおよとしたもし
君のあてんとこしめさは
をうこの法をうとの今ふおとの孫
と法をなりりを法眼ゆたくをりてう
おしとこしめをふこうあさ堂をを
たて重て京ぜ安ちう所とおんとを
の今ぜをゆとこしめいくいをうぜをう
をうをんをたうあをうをちひ

作くしおくと作りされと世のいと
かるに大小みとの事なる光
るぬくしあらはれいまくの民百姓もおの
うきの田をきをうちもてたこと
清雲はいとかるなりあんまりあ
池をりついら清き石たを□□
清雲ハ名大納言□うを作りて作くる
清仏を中国朝日如なる

こうなる筆と作くきりしいをる
事なれハうきおうに歌ともまさし
りうを事なれハ強をるをあれとうる
まをなる事のあらうる事ハいう
うとも

内閣文庫

内閣文庫

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan